

令和4年第11回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和4年11月25日(金) 午後2時00分

2 招集場所 大河原町役場 第一会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

佐藤勝弘 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、山家一博 学校教育専門監、
佐藤友幸教育総務課総務係長

5 開 会 午後2時00分

6 令和4年第10回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。
一盃森委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告

報告第12号 障害児の就学措置に係る答申について
教育総務課 佐藤総務係長より説明

(2) 専決事務報告

報告第5号 専決処分の報告について

(令和4年度大河原町一般会計補正予算(第8号))

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

丹羽委員 | 地方創生臨時交付金事業である小・中学校入学準備支援金について、柴田町の子は対象となるのか。

鈴木教育長 | 臨時交付金は自治体ごととなるので対象外。柴田町は給食費の無償化などの事業を実施している。

小山委員 | 所得制限はあるのか。

佐藤教育総務課長 | 特にございませぬ。町内在住の方対象。物価高騰の措置。

8 議 事 なし

9 その他

(1) 教育長報告（校長会資料による報告）

1 『瓢箪から人生』（夏井いつき）

(1) 筆者のひととき（河北新報）

(2) 多生の縁という磁石（『瓢箪から人生』）

(3) 編集手帳（読売新聞）

夏井先生の言葉「心の複雑骨折を繰り返しながら自然治癒力を身につけていくのが、人生というものなのかもしれない。」

だれもが、困難や苦しみを何度も経験するが、少しずつそれを乗り越える力が付いていくのだから、頑張っ生きて、という励ましにも聞こえる。

2 ギフテッド

(1) 河北春秋（河北新報）

(2) 特定分野に特異な才能のある児童生徒

次年度の文科省の取組として、「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援」事業が紹介。特定分野に才能のある子の才能を伸ばしていこうという。町内の小中学校にも、そんな子が存在するのであれば、適切な対応が必要。学校教育も少しずつ変わっていかなければならない。

3 『いかなる時代環境でも利益を出す仕組み』（大山健太郎）

アイリスオーヤマの製品開発は驚異的です。LED 日本一。マスク製造など。この会社の目覚ましい伸びは、強固でありながら柔軟性のある経営理念と方針にあるのではないかと。管理者十訓にある「同じことを繰り返すな」は、学校にも教育委員会にも言えることである。

4 カリキュラム・マネジメントとは？（石井英真）

教師個人レベルの授業改善が進むことが、必ずしも学校改善や子供の学びの充実につながるとは限らない。教師によって子供が態度を変えているような状況は、学校として崩れにくい安定した状況とはいえない。学校の授業に対する面の信頼の構築が肝要である。

5 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

(1) 国語科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

(2) 算数科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

授業の中で実現するのは大変だが、先生方は一つ一つやっていくしかない。

6 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査結果

児童生徒質問紙調査結果を見ると、各学校の成果と課題が分かる。次年度以降の学校運営の方針を設定する上で重要な情報である。

7 『学力格差への処方箋』（耳塚寛明他）

SESとは、社会経済的背景のことで、文化資本と経済資本の総量を表す指標。SESと学力が強い関係を持つが、SESだけで学力が決まるわけではない。SESが低くても高い学力を有している家庭や学校がある。先生方に意識を持ってもらい、家庭と学校が連携していく。

8 その他

資料に基づき連絡事項・授業・行事・大会・研修会等の説明。

舟山委員	P11 大山健太郎さんの話。時代にあった実践的な経営が素晴らしい。学校へ活かす機会がいっぱいある。是非、先生方に浸透していただきたい。
丹羽委員	大手企業のノウハウを活かして成功。時代に乘った経営。 ギフテッドの話。学校で経験した困難。まさにそのとおりだと思う。 カリキュラム・マネジメントの話。優れた生き生きした教師とは、まず、家庭円満だと思う。先生がより良い教育をするには、先生自身が満たされていないと難しい。
小山委員	ギフテッドの話。アメリカでは既に、ギフテッドチャイルドの特別なクラスがある。適切なサポートが重要。 学習状況調査の本の所有状況。家に本が無くても、図書館を利用しやすくする工夫が必要。放課後教室でも読書を推奨しても良い。
一盃森委員	ギフテッドの話。個別最適化。多様性の対応。世界的な流れの中で、令和の日本の教育として取り組んでいる。このような子ども達に目が向けられるのは、これからとても必要なことである。持っている才能を十分伸ばしてあげて、一人一人が輝ける場所を作ってあげるのが大事。進路なども考えて取り組まなければならない。 児童生徒質問紙の結果。P27 子どもがあまり褒められた感じが無いのは、生徒指導上の事で子どもが言われることが多いからではないか。 コミュニティスクールの関係で、子ども達といっしょに事業を行うことはすごく良い。学校の指導で、家庭教育にも意見できる部分が多くなる。学校と家庭との溝を無くすことが大事。
丹羽委員	同じく質問紙の結果で、良いところを認めてくれるかの話。子ども達に広い心で接すれば、子ども達も変わっていくと思う。

一 盃 森 委 員	P31 学力格差への処方箋の話。学校全体で取り組んでいただきたい。 質問紙の志教育の部分。一人一人自分の夢・目標・志を持っていれば、今現在何をすれば良いかが見えてくる。
小 山 委 員	指導力向上研修会の教育長の話がすばらしい。先生方の励みになる。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和4年12月16日(金)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時45分

令和4年12月16日

署名委員

署名委員